

地域の未来・志援センター

2021年度事業報告

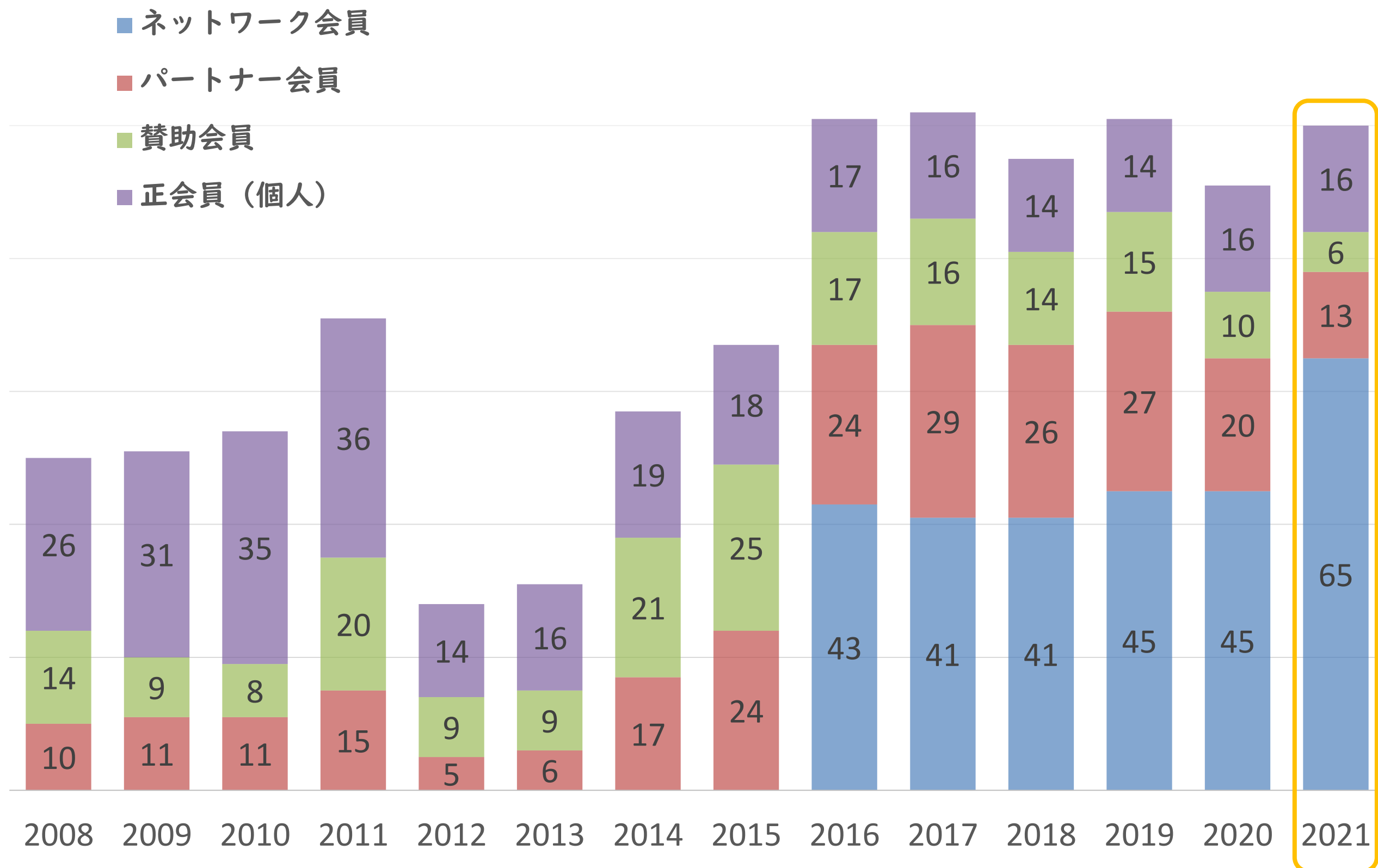


2022年 8 月 4 日

目 次

1. 会員数の推移	P 3
2. 各事業の実施報告	
事業期間と基本方針《2021年度》	P 4
1. 丹生川地区曼荼羅づくり（地域循環共生圏サポート事業）	P 7
2. ローカルSDG s リーダー養成講座開設準備	P 8～
3. 地域資源を活用した収益事業の視察調査・研究	P15～
4. 東海市民社会ネットワークへの参画	P20
5. センタースタッフ交流会	P20
6. 豊森なりわい塾サポート	P21
7. 広報活動と市民社会の基盤強化	P22
3. 総会および理事会・運営会議の開催	P23

1.会員数の推移



◆会員制度だけではない連携のカタチ

新型コロナウイルスのパンデミック、ロシアのウクライナ侵攻など、数年前には予想もしなかった大きな出来事がいくつも起こり、社会の混迷はますます深まっています。そうした中、地域の未来・志援センターとしては設立からのミッションを改めてかみしめて、「持続可能な地域のデザインを描く」というまだ見ぬ社会の在り方をめざす人々の仲間づくりが、これまで以上に大切な時代になったと考えています。そのために、会員制度にこだわらず志を同じくする多様な仲間と手を携え、アメンバーのごとく柔軟に共働できる、ゆるやかな連携・関係性構築に尽力しています。

2.各事業の実施報告

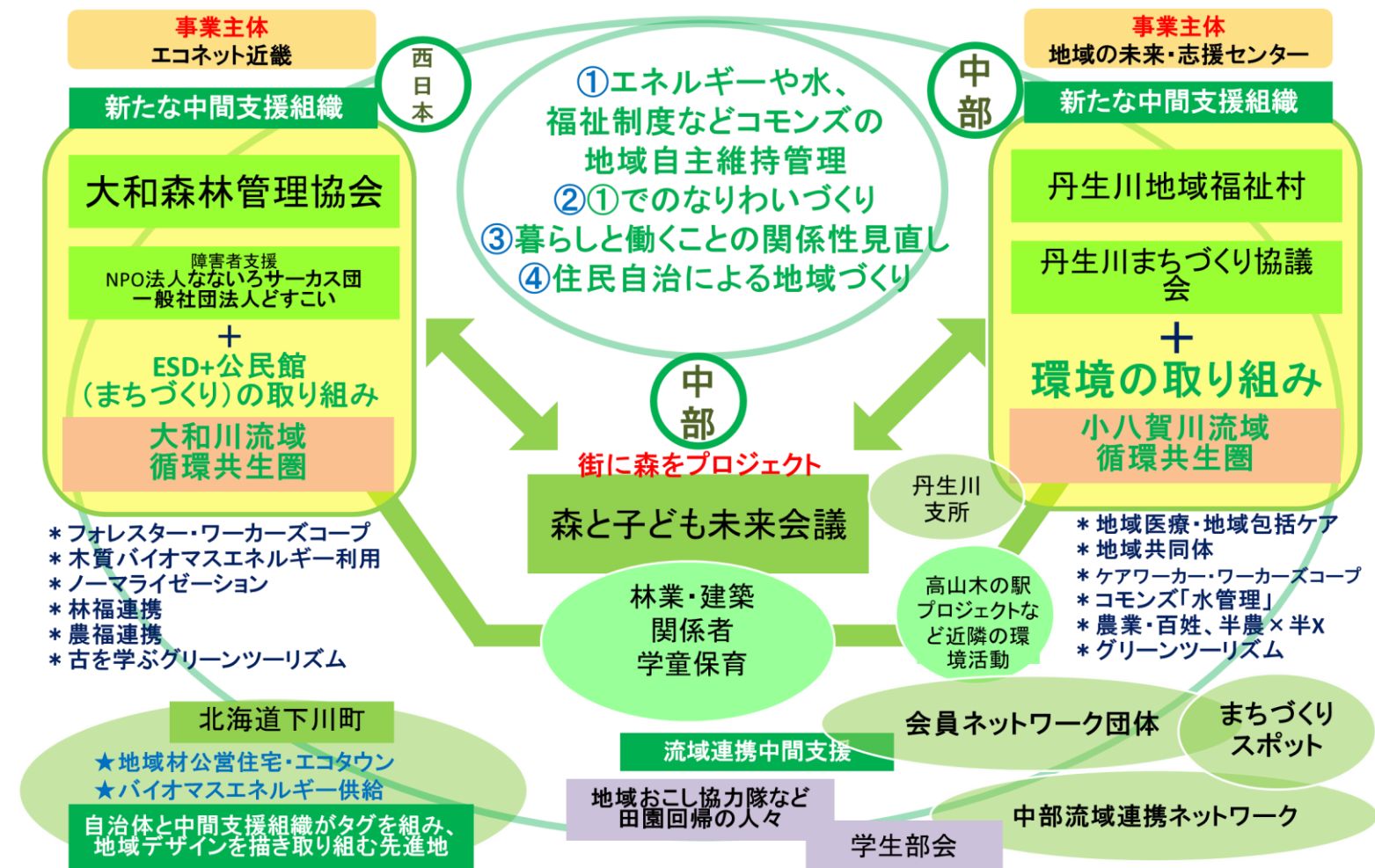
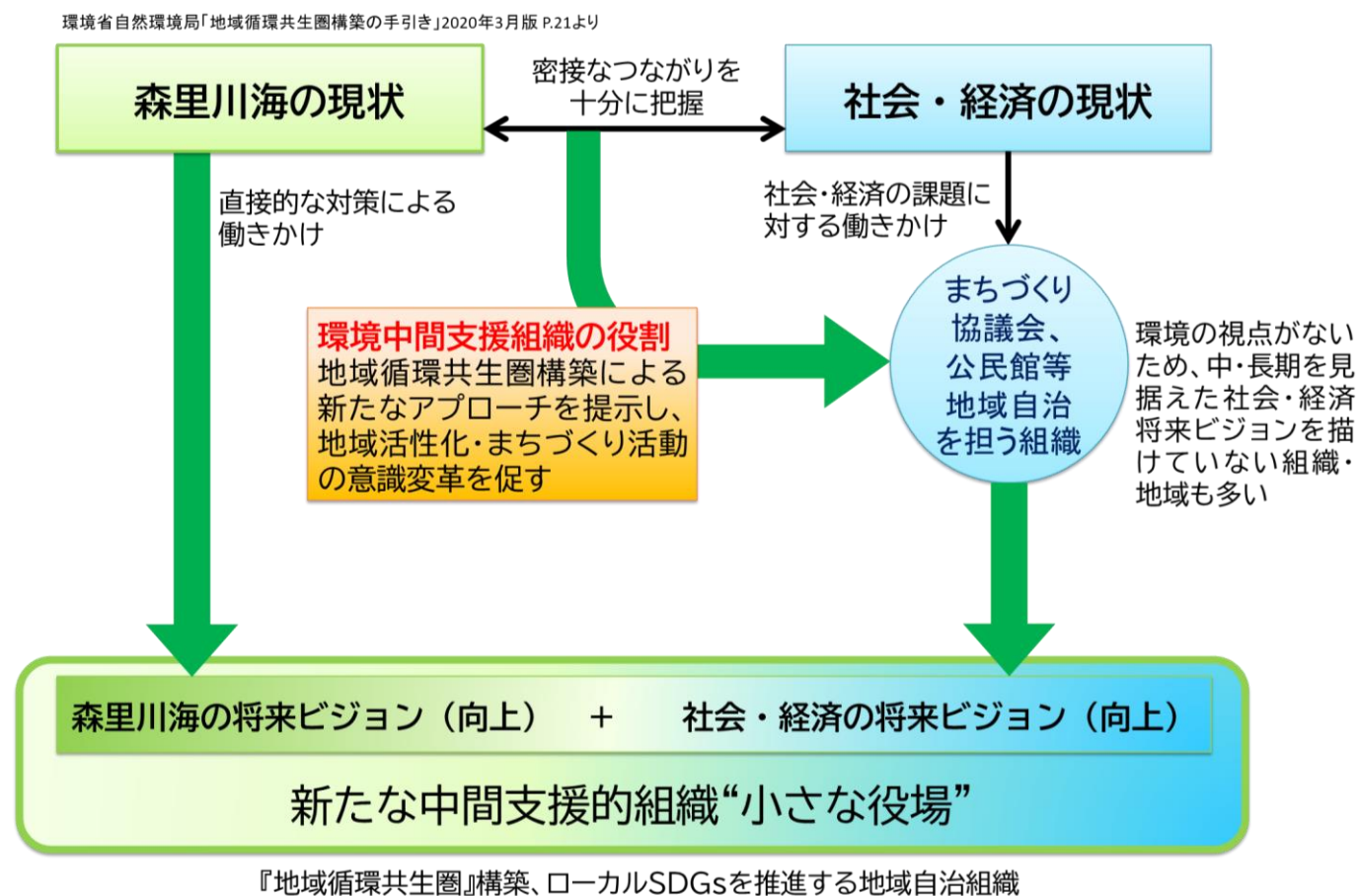
事業期間と基本方針<<2021年度>>

事業期間

2021年6月1日～2022年5月31日

基本方針

『環境活動』と『地域住民活動(まちづくりの活動)』の融合



目指す社会の姿

1. 協力社会をめざした人が緩やかにつながる社会
2. 持続可能な地域のために、頑張りたい人が頑張れる社会
3. 社会課題を自分ごととしてとらえ、参画している人が増えて
いる社会

2021年度 実施事業

1. 丹生川地区曼荼羅づくり（地域循環共生圏サポート事業）
2. ローカルSDG s リーダー養成講座開設準備
3. 地域資源を活用した収益事業の視察調査・研究
4. 東海市民社会ネットワークへの参画
5. センタースタッフ交流会
6. 豊森なりわい塾サポート
7. 広報活動と市民社会の基盤強化

新たな中間支援組織「小さな役場」 立ち上げ支援

地域の将来を描く場となり、
行政とパートナーシップを組む母体となり、
地域を自立・分散型に変える経験や
ノウハウを蓄積して人材育成の場ともなる
新たな中間支援組織を育む支援を行います。



1. 丹生川地区曼荼羅づくり（地域循環共生圏サポート事業）

後継者《30～50代》の9割が住み続ける地域において、その原因を探るヒアリング

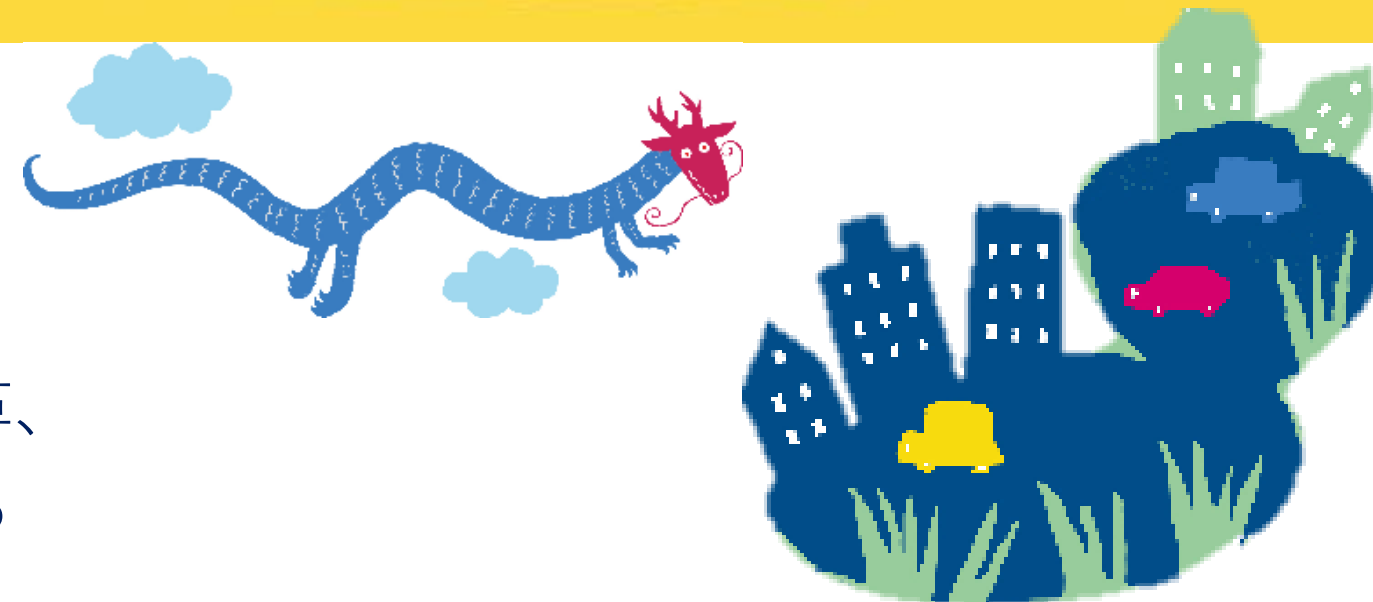
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
日にち	2021/5/15	2021/8/6～7	2021/10/24	2021/12/4～5	2022/4/29～30
場所	高山市丹生川日影地区と板殿地区	高山市丹生川日影「こお家」シャレー中西	高山市丹生川板殿公民館	高山市丹生川板殿公民館シャレー中西	高山市丹生川日影地区と板殿地区
訪問者	竹内・三ツ松 鉄井・神田（泉京・垂井）	竹内・三ツ松 鉄井・神田（泉京・垂井）、 杉本（学生）	竹内・三ツ松 鉄井・神田・中根（泉京・垂井）	竹内・三ツ松 鉄井・神田（泉京・垂井）	竹内・三ツ松・河合 鉄井・神田（泉京・垂井）
内容	今年度ヒアリングのご挨拶 （各地区の町内会長訪問）	日影地区：農業、水や生業について 板殿地区：約20年前の地域見直し事業と歴史や祭りについて	両地区とも、30～50歳の地域生まれの男性に住民同士のつながりや地域の役の担い方について	両地区とも、嫁いでこの地に暮らして5～20年の女性に、育った地域との違い、気づいたことについて	地域資源に関するヒアリングおよび地域資源マップ作製

2022年3月、住民に参加してもらい、自らの地域の資源について考える「曼荼羅づくりワークショップ」を開催予定だったが、コロナ感染拡大＜第6波＞によって2022年度に延期。3月6日、次年度打合せのために高山・まちづくりスポットにて会議を行った。

人材育成

地域を長期的に担っていく人材や地域住民の意識変革、合意形成、連携を進め、事業をコーディネートできる人材を育成します。

修了者の活躍の場やサポート体制も構築することで、地域の未来をデザインする仲間づくりを目指します。



2. ローカルSDGsリーダー養成講座開設準備

1)カリキュラム研究

- 1 働き方勉強会・ヒアリング
- 2 ローカルESG金融勉強会
- 3 ローカルSDGsヒアリング
- 4 幸福度指標研究ヒアリング→ウェルビーイングな地域を作るための経済勉強会

2)未来創造プログラム →現場の大事さがわかってきた。若者体験プログラムの経験を講座に活かす

- 1 いい川・いい川づくりワークショップ（ネットワーク組織で若者が自発的活動を生み出すサポート）
- 2 22世紀奈佐の浜PJ/矢作川流域圏懇談会協同企画「根羽村林業インターン」
- 3 22世紀奈佐の浜PJ/中部流域連携ネットワーク協同企画「天竜川下流～源流 まるごとエクスカーション」

3) 情報収集

- 1 ESG地域金融の可能性セミナー
- 2 助成財団サミット
- 3 地域の入り方・地域ガバナンス研究（東近江市の地域づくり視察）

2.各事業の実施報告

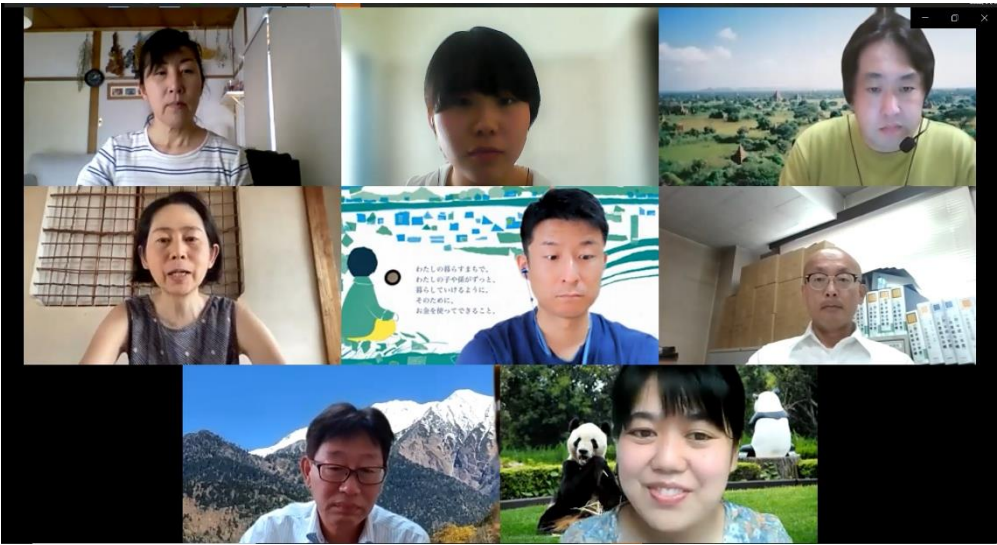
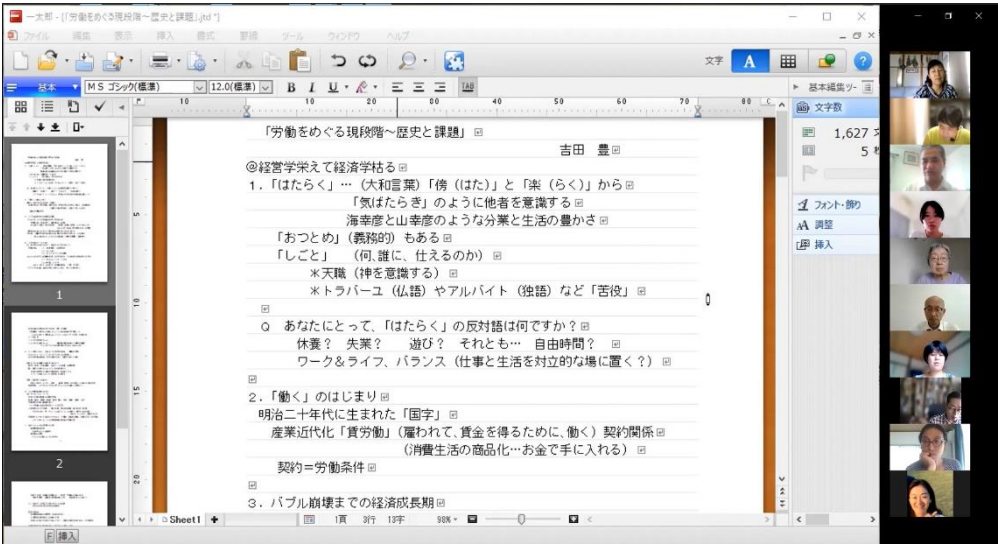
1)カリキュラム研究

1. 働き方勉強会・ヒアリング 実績

月日	講師	タイトル	内容
●第1回● 5月24日	稲場 雅紀氏 SDGs市民社会 ネットワーク	SDGsと働き方	資本主義の歴史や考え方、資本主義の問題点を整理し、SDG s と照らし合わせながら働き方について学んだ。
●第2回● 6月9日	稲場 雅紀氏 SDGs市民社会 ネットワーク	働き方と人権、つな ぐ力	全ての人を社会の主人公にする力を育むために、「自己決定」の力⇒「市民の主権」を意識した協働、協同を可能にするつなぐ力の可能性について考えた。
●第3回● 7月28日	家中 茂 氏 鳥取大学 地域学 部 特任教員	中山間地域での働き 方	鳥取県智頭町で行われている中山間地域の事例を中心に働き方を考えた。
●第4回● 9月9日	吉田豊氏 愛知県労働者学 習協議会前会長	労働をめぐる現段階 ～歴史と課題	「はたらく」という意味、労働の歴史や現在の問題点を整理、学んだ。
●第5回● 10月8日	大高研道氏 明治大学 政治経済学部	労働者協同組合につ いて－協同労働とい う働き方－	労働者協同組合の仕組みや現状を通して、社会的連帯経済の基本やその働き方について学んだ。
●第6回● 1月27日	田辺 友也 氏 認定NPO法人 街づくり スポット 専務理事	ローカルSDGsリー ダーヒアリン (NPO 法人 都市部)	まちづくりスポットの働き方に関する規約や仕組み、田辺氏自身の働き方に関することを聞き取りした
●第7回● 2月18日	神田 浩史 氏 NPO法人泉京・垂井 副代表理事	ローカルSDGsリー ダーヒアリン (NPO 法人 中山間地域)	長年NPO (NGO) ではたらいている神田氏から非営利団体で働き方や、地域の入り方について聞き取りをした。
●第8回● 3月2日	井上 早織 氏 株式会社 土屋 B型就労支援事業所 管理者	ローカルSDGsリー ダーヒアリン (株式 会社 中山間地域)	農福連携や社会的企業として事業を展開している井上氏から組織での働き方、団体、事業の持続性について聞き取りを行った。

2. ローカルESG金融勉強会 実績

月日	講師	タイトル	内容
●第1回● 5月31日	小関隆志氏 明治大学経営学部 教授	環境市民活動とESG金 融の関わり・その可 能性について	環境中間支援組織が地域課題解決事業への資金調達をサポートするために「必要なスキル」「必要な情報網」「必要な協力者」について相談した。
●第2回● 6月24日	春山文江氏 すみれや代表 池田徹弘氏 一社) 木の香るあ おぞらの会	私募債・疑似私募債 について	非営利団体の資金集めについて、実際に疑似私募債を発行し資金を集めた。春山さん、池田さんを招いて、疑似私募債の発行の仕方や運営などのお話を聞いた。
●第3回● 7月19日	多賀俊二 草の根金融研究所 「くさの一ね」	金融の基本を共に学 ぼう！	金融とお金の意義、金融商品、金融機関の仕組みについて学んだ
●第4回● 8月2日	多賀俊二 草の根金融研究所 「くさの一ね」	ソーシャルファイナ ンスの基本	SDGsと金融の関係、ESG地域金融とは、市民社会とソーシャルファイナンスについて学んだ
●第5回● 9月6日	多賀俊二 草の根金融研究所 「くさの一ね」	地域金融の基本	地域経済のための金融、リレーションシップバンキングについて、金融機関が地域に果たす役割について
●第6回● 10月4日	多賀俊二 草の根金融研究所 「くさの一ね」	銀行経営の分析の基 本	銀行経営の特徴や組織について、銀行の経営分析について
●第7回● 11月1日	多賀俊二 草の根金融研究所 「くさの一ね」	協働組織金融機関	協同組織金融機関とは何か、金融機関におけるコーポレート・ガバナンス、協同組織金融機関におけるガバナンスと市民の役割について学んだ



2.各事業の実施報告

1)カリキュラム研究

3. ローカルSDGsヒアリング 実績

月日	訪問先	ヒアリング対応者	内容
2021年 4月9日	岐阜県高山市 南小学校	みなみまちづくり協議会 事務局長 黒田久美子さん	オール地域材で建て替えられ た南小学校を訪問
2021年 4月9日	岐阜県高山市 株式会社長瀬土建	株式会社長瀬土建 代表取締役 長瀬雅彦さん	SDG s 宣言や、林業に参入し、 環境問題、人権に配慮した経 営を行う長瀬土建の取り組み
2021年 4月20日	岐阜県高山市 NPO法人飛騨高山わらべうたの 会	飛騨高山わらべうたの会 理事長 岩塚久案子さん	木のおもちゃやワークショッ プなど木育の取り組みについ て
2021年 6月14日	岐阜県高山市 林業家	林業家 野中長次郎さん	高山での林業の歴史や取り組 みについて
2021年 6月26日	長野県根羽村 根羽村森林組合	根羽村森林組合 参事 今村 豊さん	林業の六次産業化や「木づか い」運動について
2021年 8月28日	静岡県藤枝市 おむすびごはん家 むすひ、ニシカ、 アハス、LalalaPLaNETplus 他	一社 SCLABO 代表理事 渡村マイさん	空き店舗を使い、量り売りや 地産地消品を販売しエリアの 価値を上げる取り組み
2021年 9月18日	愛知県新城市 新城フォレストエネルギー	新城フォレストエネルギー 大西康史さん	地域材を使った薪ボイラーで 温泉を温める取り組みについ て
2021年 9月25日	静岡県浜松市春野町 天竜小さな林業春野研究組合	天竜小さな林業春野研究組合	春野地域で持続可能な小さい 林業の取り組みについて
2021年 10月25日	岐阜県高山市 飛騨信用組合	飛騨信用組合 専務 山腰 和重さん	地域通貨「さるばぽコイン」 の取り組みについて
2021年 11月6日	愛知県豊田市足助地区御内	Gonzore TRAIL 藤澤夫妻	おしゃれで心癒されるイベン トで地域の森の魅力を広める 家族の取り組みについて
2021年 12月11日	静岡県浜松市天竜区 旧佐久間町	佐久間地区関係者	旧佐久間町での地域づくりや 中山間地域での起業について
2022年 1月21日	愛知県岡崎市額田地区 額田木材製材業組合組合長	株式会社しらい 専務取締役 白井 仁土さん	学童保育所地域材建設プロ ジェクトに参加し、林業を支 える取り組みについて
2022年 5月24日	丹生川ふるさと福祉村	丹生川ふるさと福祉村 牧上 一成 さん	丹生川ふるさと福祉村の取り 組みおよび丹生川地区の地域 づくりについて



株式会社長瀬土建



わらべ歌の会



根羽村森林組合



新城フォレストエネルギー



天竜小さな春野森林研究組合



飛騨信用組合

2.各事業の実施報告

1) カリキュラム研究

4. 幸福度指標研究ヒアリング
→「ウェルビーングな地域を作るための経済勉強会」実績

エコネット近畿と協議の結果、「幸福度指標」に関する研究会についてはエコネット近畿が担当。当団体では「地域で暮らすことの幸福」の基盤となる「ウェルビーングな地域を作るための経済勉強会」を12月から4回にわたって実施することとなった。講師は、ESG地域金融勉強会の講師・多賀俊二氏。多賀氏は、NPOバンク研究・支援における第一人者であり、多賀氏のファシリテートの下、地域で暮らし、仕事をすることで幸福感を得られる地域経済の在り方について研究する。

月日	講師	タイトル	内容
●第1回● 12月13日	多賀俊二 草の根金融研究所「くさのーね」	地域経済を支える信用金庫、信用組合	地域経済が疲弊し、人口減少・高齢化が課題となる地域において、SDGsの理念で仕事づくりを行う事業者支援が重要となる。そうした動きについて学び、地域で生きる基盤とは何かを考える。
●第2回● 1月17日	多賀俊二 草の根金融研究所「くさのーね」	地域課題解決を自分ゴトにするために中間支援が使えるスキーム	地域の課題を地域住民主体で解決するための「市民ファンド」や「ソーシャル・インパクト・ボンド」などについて学ぶ。
●第3回● 2月7日	多賀俊二 草の根金融研究所「くさのーね」 深尾昌峰 龍谷大学政策学部教授	労働をめぐる現段階～歴史と課題	「地域循環共生圏」構築の先進地である東近江市の参与も務める深尾氏をゲストに招き、ウェルビーングな社会を目指す経済の在り方、安心感を得られ、充実感をもって暮らせる地域をつくるための多様な組織連携について学ぶ。
●第4回● 3月7日	多賀俊二 草の根金融研究所「くさのーね」	講座構築のための検討会	1～3回を振り返り、講座内容を考える。



いい川・いい川づくりワークショップ@中部（会場：長良川国際会議場）



2)未来創造プログラム

1. いい川・いい川づくりワークショップ@中部 参画

大学生チームの自主企画支・自発的な活動を伴走支援。近藤理事、事務局三ツ松、河合が実行委員として参加し、全国の川づくり・地域づくり団体の交流事業をサポート（近藤理事、三ツ松はコアメンバーとして運営全般に関わる）。

開催概要

日時 2021年10月2日（土）13：00～21：00
2021年10月3日（日）8：00～15：00
場所 現地会場：長良川国際会議場（岐阜県岐阜市長良福光2695-2）
オンライン：zoomを使用
LIVE配信：YouTube
主催 中部流域連携ネットワーク〈当団体が事務局サポート〉
（いい川・いい川づくりワークショップin中部現地実行委員会）
いい川・いい川づくり実行委員会
後援 愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県、岐阜市、国土交通省
協力 国土交通省中部地方整備局、NPO法人ORGAN、愛知・川の会
川づくり会議みえ、
NPO法人天竜川ゆめ会議、22世紀奈佐の浜プロジェクト
参加者数 会場参加者（抗原検査、ディスタンス）：約110名
オンライン（ZOOM）+ Youtube視聴者数：延べ1000人

■ 昨年のゆく川・くる川 川談義に引き続き、社会人若手と学生の交流が進み、未来創造プログラムメンバーが中核となって「広報部」が設置された。広報部のメンバーは全体会議を通じて、課題に感じたことの中から自主的にワーキングを行い、動画作成、チラシ作成など、若手間で連携しながら役割を担った。また、そのメンバーが中心となり、長良川流域の地域資源や歴史をたどる「水リレー企画」を実施。これにより、若手間の信頼関係がさらに醸成され、中部流域連携を担う人材育成は順調であるといえる。



学生メンバーによる自主企画「長良川・水リレー」



2.各事業の実施報告

2)未来創造プログラム

2. 22世紀奈佐の浜PJ/矢作川流域圏懇談会協同企画 「根羽村林業インターン」

林業を地域の基幹産業と位置づけ、エコツーリズムや木育活動なども重視して、下流域との連携を深める根羽村。SDG s の理念に地域づくりにおいて重要な役割を果たす同村森林組合の協力を得て、林業体験や地方創生に取り組むIターン者との交流を行なう体験プログラムを実施。

開催概要

日 時 2022年3月9日（水）・10日（木）

場 所 根羽村

対 象 環境問題、SDG s、地方創生に関心のある大学生とその関係者

共 催 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、矢作川流域圏懇談会

<https://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/kaigi/yahagigawa/ryuiki-kondan/concept1.html>

協 力 根羽村森林組合

プログラム

●9日

- ①根羽村トータル林業等の話 ブレインストーミング
- ②伐採現場、植栽現場見学 スギ・ヒノキ・コウヨウザン
- ③森林空間 ネバーランド裏
- ④懇談会

●10日

- ①製材所見学
- ②間伐体験
- ③枝打ち作業
- ④ブランコづくり
- ⑤サウナ体験(サウナと清流)
- ⑥ジビエバーベキュー
- ⑦振り返り会



3. 22世紀奈佐の浜PJ/中部流域連携ネットワーク協同企画 「天竜川下流から源流までまるごとエクスカーショ」

天竜川流域を下流（浜松市）から源流・諏訪湖（長野県岡谷市）まで辿る体感エクスカーショを実施した。天竜川と諏訪湖、その流域について、現地に赴き、景観や市民の暮らしとのつながりから、その特徴をとらえることを目的とした。このエクスカーショは、2022年度実施予定の中部版「いい川」ワークショップの準備及び下見を兼ねた。

開催概要

日 時 2022年5月6日（金）～8日（日）

場 所 天竜川流域

共 催 22世紀奈佐の浜プロジェクト学生部会、矢作川流域圏懇談会、中部流域連携ネットワーク

参加者 11名（うち大学生4名）

プログラム

5月6日／① 愛知県大千瀬川の煮渕ポットホール、愛知～静岡に至る中央構造線露頭箇所②佐久間ダム（静岡県浜松市）③ 天竜峡にかかる歩道橋「そらさんぽ」（長野県飯田市）④飯田城址（飯田市）より天竜川を俯瞰

5月7日／⑤ 天竜峡・天竜川ライン下り（飯田市）⑥ 小渋ダム、排砂バイパストンネル（中川村）⑦ 大鹿村 中央構造線博物館（河本氏ガイド）⑧ 諏訪湖釜口水門（岡谷市）天竜川最上流端

5月8日／⑨ 諏訪湖湖畔、及び「御柱祭」（2022年は7年に一回の開催年）関連個所の視察（下諏訪町）諏訪湖浄化推進連絡協議会 小口智徳氏他の案内による



3)情報収集

1. ESG地域金融の可能性セミナー

エコネット近畿が関西広域連合に提案し、実現した本セミナーの打ち合わせから参加し、地域金融機関が地域経済循環に果たす役割についてどのように考えているか、今後の動向などを探った。

開催概要

- 【場 所】 オンライン
- 【対 象】 地方金融機関、環境団体、行政、企業等
- 第1回 2021年9月29日（水）13：30（13：00開場）～16：30
基調講演「ESG地域金融とは何か」
事例紹介「ESG地域金融促進事業」良質な森林資源“吉野材”を活用した新たな居住様式の創造による地方創生奈良モデルの確立
- 第2回 2021年11月8日（月）13：30（13：00開場）～16：30
基調講演「ESG地域金融の進め方」
事例紹介「ソーシャル企業認証制度」



2. 助成財団サミット

エコネット近畿、きたネットと連携し、助成財団とともに、アフターコロナを見据えた環境活動への助成の在り方について考える勉強会を下記のように2回実施した。

開催概要

- 【場 所】 オンライン開催（Zoom）
- 【対象者】 環境活動支援に取り組む助成財団
- 【内 容】 事例紹介、ディスカッション、課題や疑問の共有
- 【主 催】 環境助成サポートチーム
- 第1回「団体運営者から聞く！資金調達のリアルな実情とは」
8月24日（火）14時～16時
NPO法人棚田LOVER'S 永菅 裕一氏
NPO法人エコ・モビリティ サッポロ 栗田 敬子氏
- 第2回「組織基盤強化への助成の重要性」
11月18日（木）14時～16時
パナソニック NPO/NGOサポートファンドfor SDGs
CSR・社会文化部 部長 福田 里香氏
地球と未来の環境基金 理事長・事務局長 古瀬 繁範氏



2.各事業の実施報告

3)情報収集

3. 地域の入り方・地域ガバナンス等研究

場 所 滋賀県東近江市三方よし基金
日 時 2021年11月10日（水）
目 的 環境中間支援組織が、地域の他のステークホルダー、特に福祉に関わる組織や活動者と連携して地域づくりに取り組む道筋、その場合の資金調達方法や行政との連携の仕方について学ぶ。
講 師 公益財団法人東近江三方よし基金 事務局長 山口美知子氏
薪遊庭 代表 村山英志氏

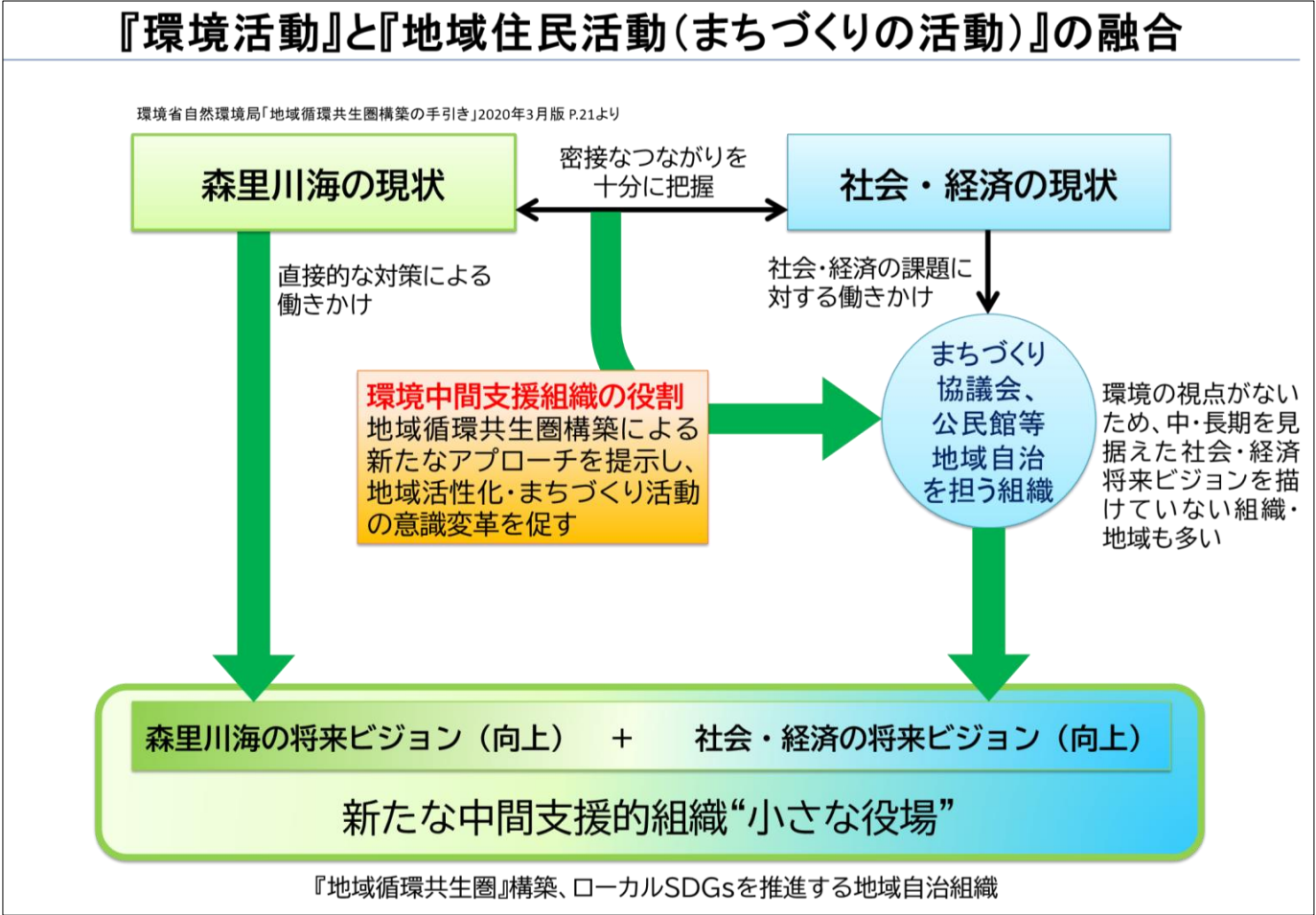


「薪遊庭」では、森林整備活動と自立的に働くことが困難な若者支援を行うソーシャルワーカーとの連携で生まれた『働きもん』活動について視察・研修。村山氏からお話を伺った。その後、三方よし基金にて、『働きもん』活動をはじめ、「環境」×「福祉」（まちづくり）活動への資金調達サポート方法、これからのまちづくり活動資金となりうるソーシャル・インパクト・ボンドなどについて、事務局長の山口氏から講義を受けた。

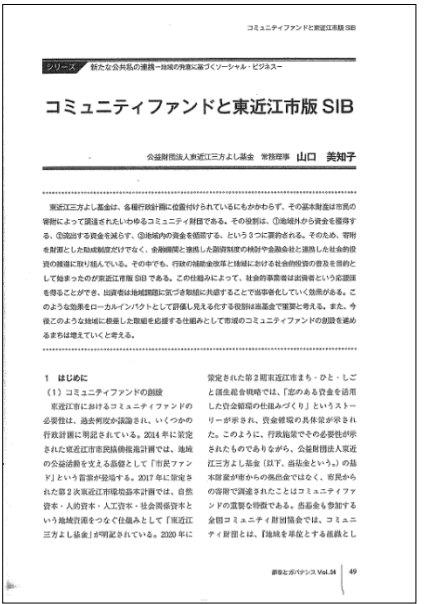


『働きもん』の収益のひとつである着火剤づくり。右は、本活動を支援してくれる地元企業から提供されたろうそく。「環境」×「福祉」事業が地域コミュニティをつむぎ直す意義を持つことをしっかり見える化するのも中間支援組織の役割と強く認識。

◆当団体が目指す中間支援組織像（2021年度事業計画書より）



中間支援組織としての「東近江三方よし基金」は、当団体が目指す上図に最も近い組織であり、非常に学ぶことが多い。同基金のけん引役である常務理事山口氏より、環境をベースとした中間支援組織を運営するためのしくみづくりや、地域のステークホルダーを巻き込んだ資金調達方法について学んだ。そこで休眠預金活用のアドバイスをうけ、ソーシャル・インパクト・ボンドの可能性についてレクチャーを受けた。今後の最大の課題は、私たちの大きな特徴である広域活動が、1つの市をエリアとして活動する三方よし基金と異なる点。この相違点をどのようにクリアしていくかが、2022年度の大きなテーマであることが本研修で明確となった。



地域資源を活かす収益事業

地域資源を活かし、環境やその他の地域課題を
掛け合わせた事業を立ち上げ、地域の環境資源で仕事
をする多様な人を増やし、地域や社会に新たな働き方
の価値を創造します。



3. 地域資源を活用した収益事業の視察調査・研究

1) 森と子ども未来会議「学童保育所木造化勉強会」伴走支援

- 1 「学童保育所木造化勉強会」サポート
- 2 資料作成・広報支援

2) 資料作成「街に森をプロジェクト」「木のいいところ」

*前半、近畿（奈良を中心に）視察・交流し、学童木造化勉強会のサポートを行った。近畿圏の学童保育所は奈良に限らず官設であることが多いため、近畿における同プロジェクト動きは鈍いが、愛知での学童木造化勉強会の運営（ハイブリッド開催のノウハウ提供、動画撮影&編集、SNS発信）サポートで信頼を得て、伴走支援を依頼されるまでの関係性構築ができた。その波及効果で矢作川流域圏懇談会との連携も生まれつつある。

3) 地域材活用先進事例視察

7月12日 奈良県「地域内エコシステム連絡検討会」奈良の木ブランド課主催
10月18, 19日 奈良県大和森林管理協会、阪口製材視察

2.各事業の実施報告

1)-1 森と子ども未来会議「学童保育所木造化勉強会」サポート<4～7月>
「より良い保育のために施設の木造化を考える」学童保育の木造化勉強会

1日目



木造学童の体感と体験談

【日にち】

2021年4月10日（土）13時～17時

【場所】

あおぞら学童保育クラブ

【講師】

小嶋 哲志さん（あおぞら学童保育クラブ支援員）、池田 徹弘さん（名古屋市学童保育連絡協議会会長、一般社団法人木の香るあおぞらの会代表理事）、村瀬 昇さん（一般社団法人木の香るあおぞらの会理事・事務局長）

【内容】

木造の「あおぞら学童保育クラブ」で実施され、木造施設を体感しながら、建設の経緯、子どもの変化、行政の変化、体験談などから学童木造化の全体像を学ぶ

2日目



伐採・製材体験と林業

【日にち】

2021年5月8日（土）10時～17時

【場所】

千万町楽校と額田の森

【講師】

唐澤 晋平さん（一般社団法人奏林舎 代表理事）、白井 仁士さん（株式会社しらい専務取締役。額田木材製材業組合組合長）

【内容】

岡崎市額田の森で、森の健康診断や伐採体験、製材所での製材見学をしながら、日本の森林と地域林業の現状を学ぶ。

3日目



木造施設の性能と地域連携

【日にち】

2021年6月12日（土）13時～17時

【場所】

松栄学童保育クラブ

【講師】

辻 充孝さん（岐阜県立森林文化アカデミー准教授）、山崎 真理子さん（名古屋大学大学院生命農学研究科准教授）、岡野 和應さん（松栄第一学童保育クラブ 2020 年度父母会長）

【内容】

木造施設の健康環境性能、耐震耐火性能、SDGs との関連性や木育・住育の重要性、地域連携の大切さを学ぶ。

4日目



木造化プラン作り

【日にち】

2021年7月3日（土）10時～17時

【場所】

あおぞら学童保育クラブ

【講師】

東海林修さん（東海林建設設計事務所）

【内容】

勉強会の最終日で、学童保育所を木造化するための実践的なプラン作りを学ぶ。

1)-1 森と子ども未来会議「学童保育所木造化勉強会」サポート

＊「より良い保育のために施設の木造化を考える」学童保育の木造化勉強会 第2弾

＊山・川・里・海をつなぐ流域思考（ESD）の林業勉強会

学童保育所木造化勉強会×はくほう学童保育クラブ 完成見学会



はくほう学童保育クラブ見学会の様子



参加者からの質問

【日にち】

2022年3月27日 13時～16時半

【場所】

愛知県尾張旭市 はくほう学童クラブ

【講師】

東海林修さん（東海林建設設計事務所）

唐澤晋平さん（奏林舎） 他

【内容】

①学童保育所地域材建設は、森とまちをつなぐ活動であることを伝える

②脱炭素社会構築へ向けた仲間づくりをする

③すでに木造化を実現した先輩チャレンジャーのプランづくり・資金調達のノウハウを後輩チャレンジャーに伝える

【参加者】会場：25名、オンライン：11名



木造化を実現した学童のお話



森とまちをつなぐ
パネルディスカッション

山・川・里・海をつなぐ流域思考の林業勉強会 天竜川・流域「まちと森をつなぐ」取り組みに学ぶ

※愛知県、静岡県にまん延防止等重点措置が適用されたため2022年6月2日に延期となった。以下は予定していた内容。

【日にち】2022年3月3日（木）19時～21時

【場 所】岡崎市額田センター こもれび館

【講 師】藤江俊允さん（浜松市森林・林業未来会議）

【共 催】額田木の駅プロジェクト

【内 容】

①浜松市の上流から下流までの木材流通の取り組みをしる。

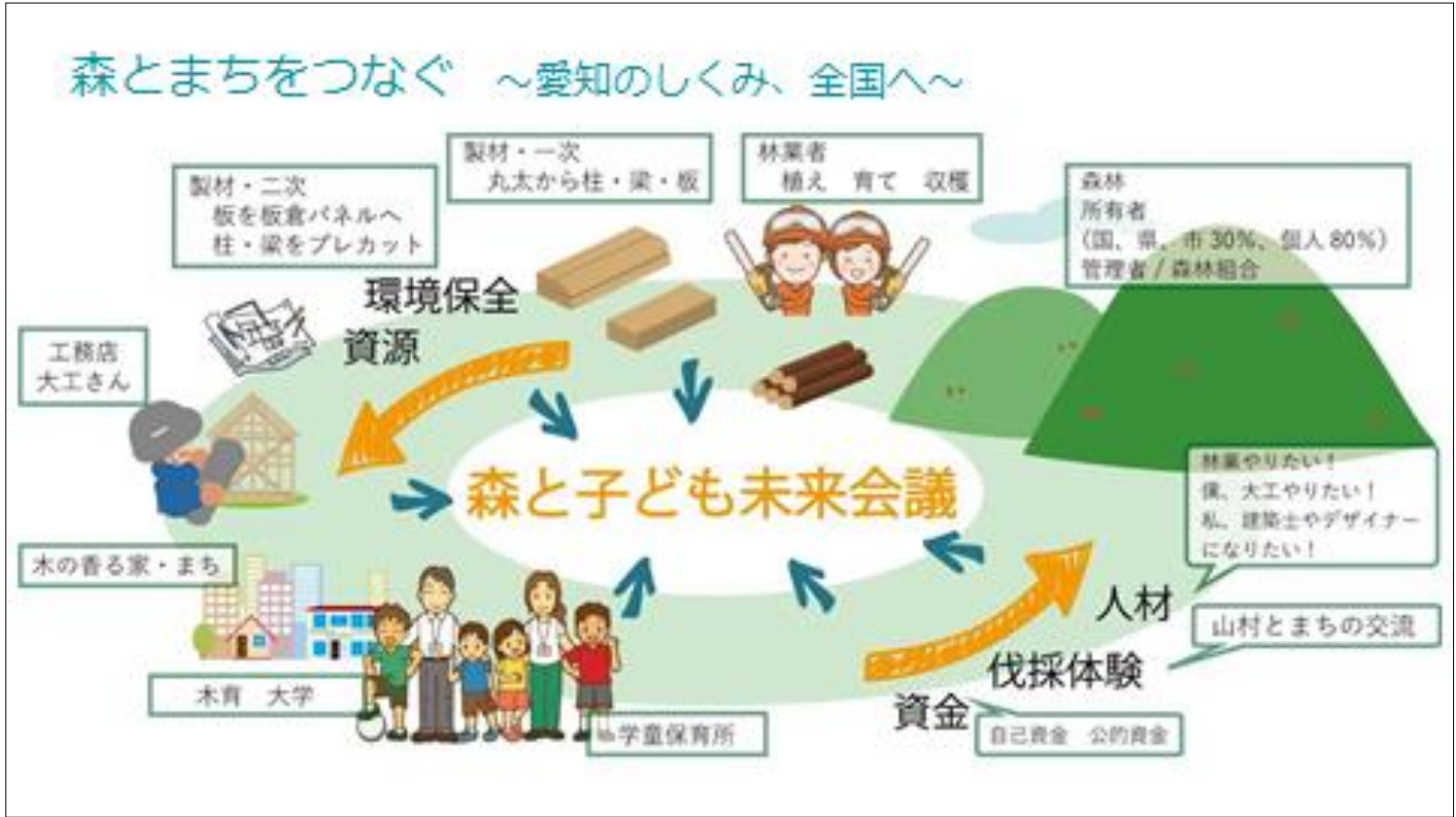
②浜松市独自のFSC認証の仕組み、運用方法、効果を知る。

③交流を図り、共に学び合う。

2.各事業の実施報告

1)-2 資料作成・広報支援

①奈良県議へのプレゼン資料作りサポート



森と子ども未来会議が関わった
愛知の事例

山里学童保育クラブ 名古屋市昭和区 2019年7月竣工

中川学童保育所（内装木質化）名古屋市港区 2019年11月竣工

あおぞら学童保育クラブ 名古屋市緑区 2020年7月竣工

松栄第一・第二学童保育クラブ 名古屋市昭和区 2021年4月竣工

有松学童保育所（建設中）名古屋市緑区 2022年3月竣工予定

はくほう学童保育クラブ（建設中）愛知県尾張旭市 2022年3月竣工予定

こどもの家みなみクラブ（建設中）市尾張南城市 2022年3月竣工予定

グット・ビレッジあのね（着工予定）愛知県春日井市 2022年着工予定

あおぞら学童保育クラブ

本取組みの脱炭素貢献ポイントを見える化

2026年に愛知県を中心とする東海地域で開催されるアジア大会において使用する選手宿舎を地域材建築（板倉構法）で建てることを、森と子ども未来会議が県の大会運営委員会に提案している。その実現に弾みをつけたいと『脱炭素チャレンジカップ2022』にエントリーするとのことと相談を受け、同取組の脱炭素におけるアピールポイントを文章化するためのワークショップをエコネット近畿と協力して実施した。その内容を元にエントリーシートを作成され、ファイナリスト28団体に選ばれ、文部科学大臣賞を受賞された。

2.各事業の実施報告

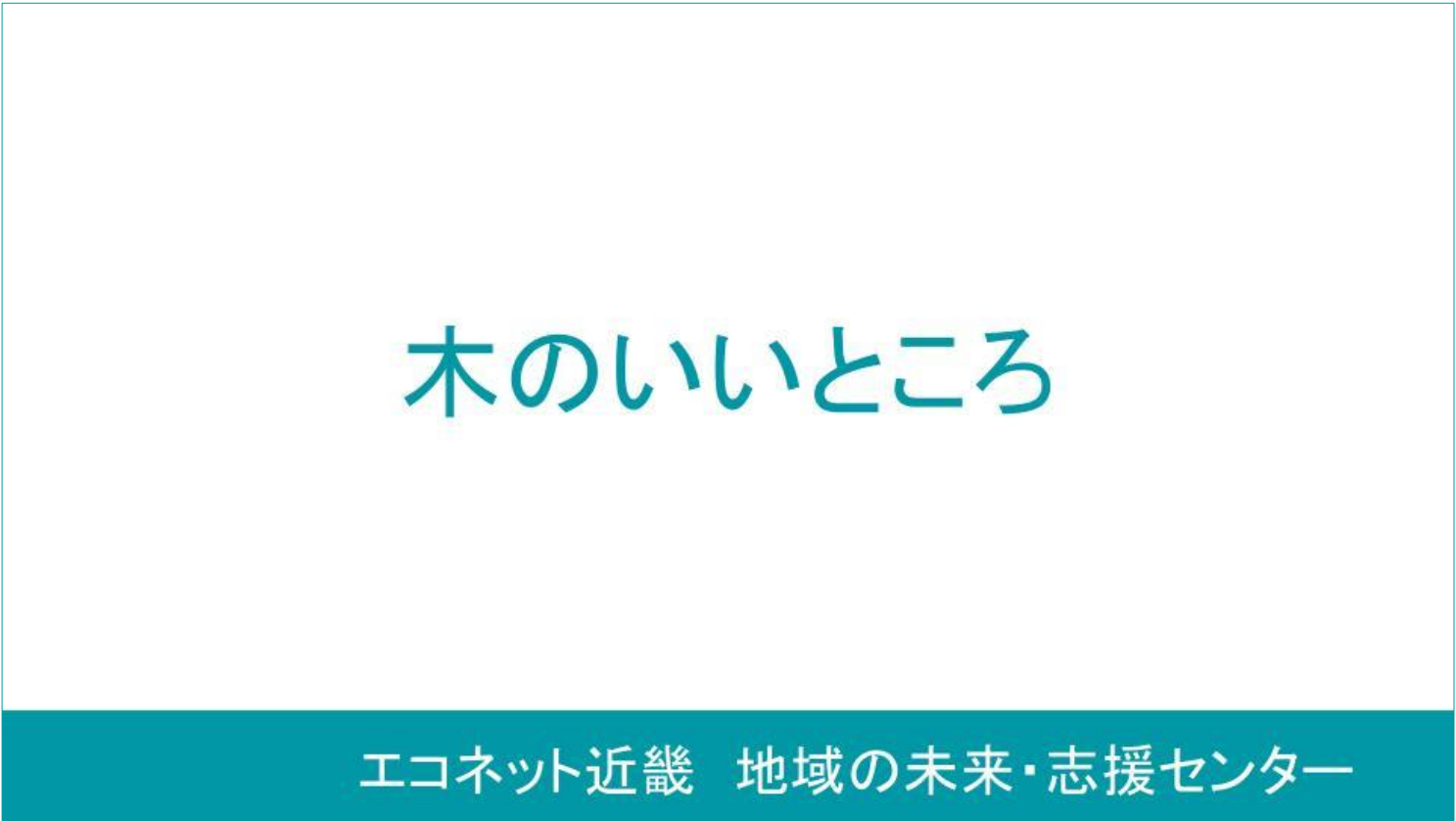
1)-2 資料作成・広報支援

②資料作成「街に森をプロジェクト」「木のいいところ」

街に森をプロジェクト



木のいいところ



街に森をプロジェクト「3つのやさしさ」

CO₂を他の材料に比べて多く固定する。
材料製造時のCO₂放出量が少ない。
ウッドマイレージを減らし、輸送による環境負荷の軽減。

地球に

地域の森の持続的管理につながり、災害にも強い地域へ。
地域振興、地域の活性化。
エネルギーの地産地消と地域拠点に。

地域に

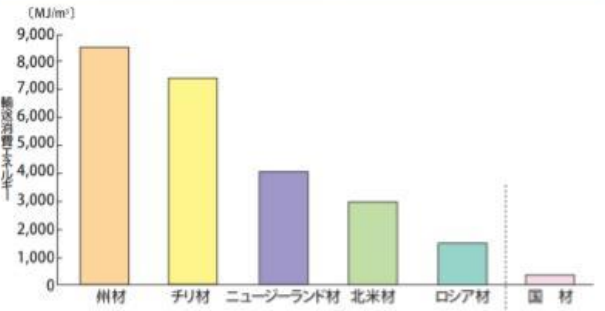
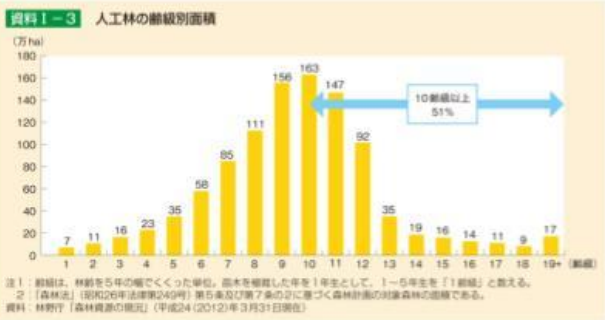
夏は涼しく、冬は温かい。温かい視覚と安らぐ感触。
ストレス緩和、感染症の予防など安全に過ごせる。
都市と中山間地域の交流、環境学習の場。

人に

持続的な森の管理につながる
樹木が吸収できるCO₂は、7～9齢級で最大値をとり、その後は減少する。樹木は計画的に伐採して、木材として利用していくべき。
10齢級以上の利用期を迎えた森林面積が51%もあり、昭和41年度と比較して大幅に増加している。現在、計画的に樹木を伐採して利用する時期にある。

輸送による環境負荷の軽減
木材の輸送エネルギーが木材利用における環境負荷に占める割合が大きい
国産材の調達エネルギーと比較してみると、ロシア材の半分、欧州材の7分の1のトータルエネルギーで同等の木材を利用することができる。

出典：令和元年度森林および林業の動向（林野庁）
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/r1hakusyo/zenbun.html>



環境(地域材を使うことで)

4. 東海市民社会ネットワークへの参画

「海外ルーツの市民とともにある日本社会」

日 時 2022年2月6日(日) 10:30~16:30

場 所 JICA中部 オンライン

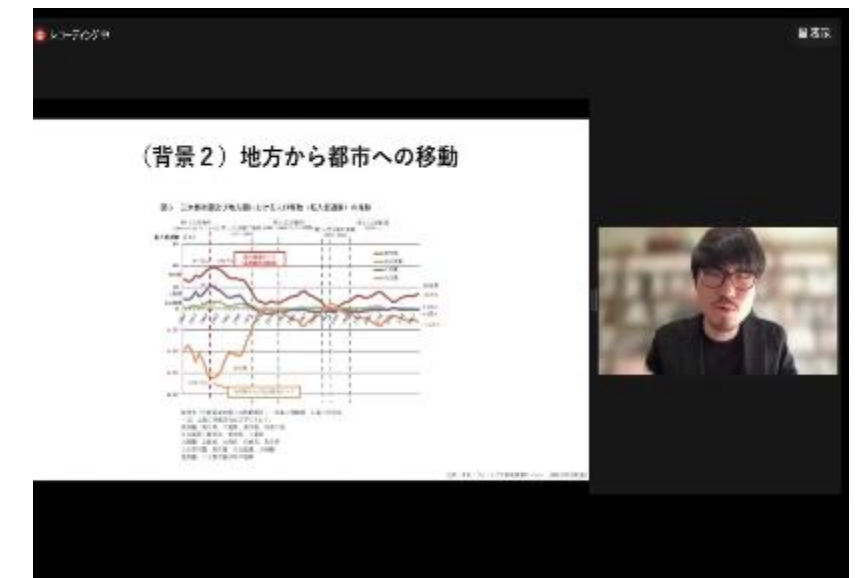
基調講演：外国人労働者と日本社会　これまでとこれから

講師：望月優大氏

現場からの発表：市民社会における多文化共生の取り組みと課題

参加人数：157名、運営36名

* 東海市民社会ネットワークの活動の一環として、名古屋NGOセンターが中心となってJICA中部へ提案した上記取り組みの企画段階からかわり、会議の運営や合意形成のサポートを行った。



5. センタースタッフ交流会

第10回東海地区市民活動センタースタッフ交流会

日 時 2021年10月15日(金) 19:00～21:00

会 場 対面 名古屋市市民活動センター 集会室

オンライン ZOOM

テーマ おたがいさま会議の事例から考える市民活動支援とは！？

ゲスト 小池達也氏(一般社団法人よだか総合研究所 理事)

浜田ゆう氏(NPO法人レスキューストックヤード事務局長)

鈴木聖人氏（豊田市青年会議所・豊田おたがいさま会議発起人）

参加者数： 24名（運営スタッフ3名、ゲスト 4 名含む）



6. 豊森なりわい塾支援

実行委員会形式で運営する同塾において、2009年～2018年の10年間、当団体は事務局として運営主体を担ってきた。2019年度より事務局機能を（一社）おいでん・さんそんに移管し、当団体は運営サポートを行っている。

	日にち	内容	備考
第1回	2021年6月26日、27日	地元学～地域をあるく・みる・きく	
第2回	2021年7月17日、18日	地域を知り、地域に学ぶ「森林」	
第3回	2021年10月16日、17日	地域を知り、地域に学ぶ「食と農」	
補講	2021年8月12日	食と農を考える	オンライン
補講	2021年9月26日	自給家族×食の家族	オンライン
第4回	2021年11月20日、21日	お年寄りの話に耳を傾ける「聞き書き実習」	
第5回	2021年12月11日、12日	地域コミュニティと自治/まつり	
第6回	2022年1月15日、16日	くらし・かせぎ・つとめ/自分をみつめる	
補講	2022年2月19日	近現代をとらえ直す	オンライン
第7回	2022年4月9日、10日	これからの幸福論/修了レポート作成	
第8回	2022年5月28日、29日	修了レポート発表会/修了式	

7. 広報活動と市民社会の基盤強化

1)情報発信

実施項目	メールニュースの 発信	HPの更新	成果評価指数	メール配信先数	FB「いいね」数
目標	年間24回	月2回 年間24回	目標	900件	1000
実績 21年6月～22年5月	20回	20回	実績 21年6月～22年5月	685件 会員57 愛知307 岐阜143 三重178	939

2) 助成金セミナー

楽縁プロジェクト×資金調達セミナー
「田舎で夢を実現するための助成金活用オンラインセミナー」

日 時 2022年3月12日（土）14：00～17：00
場 所 オンライン開催（Zoom）
講 師 永菅 裕一 氏（NPO法人棚田LOVER's理事長）
正阿彌 崇子 氏（NPO法人エコネット近畿副理事長・事務局長）
山下 比呂 氏（NPO法人エコネット近畿職員）
主 催 NPO法人棚田 LOVER's、古民家しろめて
NPO法人近畿環境市民活動相互支援センター
NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」
NPO法人地域の未来・志援センター

3. 総会および理事会・運営会議の開催

1. 第17回通常総会

- 【実施日時】 2021年7月22日(木・祝) 16:00～17:00
- 【実施場所】 オンラインおよび地域の未来・志援センター事務所
- 【審議事項】 第1号議案 2020年度事業報告について
第2号議案 2020年度決算について
第3号議案 2021年度事業計画について
第4号議案 2021年度活動予算について
第5号議案 役員の選任について

2. 2021年度理事会

❖第101回定例理事会

- 【実施日時】 2021年6月17日(木) 16:30～18:30
- 【実施場所】 オンライン
- 【出席者数】 8人
- 【内 容】 総会について

❖第102回定例理事会

- 【実施日時】 2021年7月22日(木・祝) 17:00～17:30
- 【実施場所】 地域の未来・志援センター事務所
- 【出席者数】 8人
- 【内 容】 代表理事及び副代表理事選出について

❖第103回定例理事会

- 【実施日時】 2021年12月23日(木) 14:00～16:30
- 【実施場所】 地域の未来・志援センター事務所
- 【出席者数】 7人
- 【内 容】 前期の事業報告及び後期、次年度の事業について

❖第104回定例理事会

- 【実施日時】 2022年5月27日(金) 14:00～15:45
- 【実施場所】 オンライン
- 【出席者数】 6人
- 【内 容】 2022年度の事業について
2021年度財政状況について
2022年度総会について

3. 2021年度運営委員会

❖21年度第1回運営委員会

- 【実施日時】 2022年3月16日(水) 13:00～16:00
- 【実施場所】 オンライン
- 【出席者数】 10人(理事、事務局)
- 【内 容】 22年度の事業及び、23年度以降の団体の活動について